

鈴木眞年
纂編

裁判議案

初編
二

713
924
2

和装本

5



7/173
924
2

學
校



裁判議案卷之二

大正二年四月八日 鈴木真年

職制律

○棄毀官文書條

第五十号

茨城裁判所ノ文書及ヒ印ハ院省察司府縣ノ文

書印ト同ク論シ然ルヘキ哉

指令

伺ノ通

第七十八号 司法省布達

裁判議案

卷之二

日中氏藏

地券証書ヲ遺失誤毀スル者ハ論スルヲ勿レ
第九十二号 京都裁伺
伺書略之

指令

諸雜藝者等へ渡シ置ク鑑札及地券狀判取帳ヲ
遺失スル者今改メテ其罪ヲ問ハス

第三十二号 鳥取縣伺

區長ノ送籍狀ヲ棄毀スル者棄毀官文書律余ノ
文書ニ引諛可然ヤ癸酉八月中新瀉縣伺御指令
ニ縣ノ長官押印ノ指令書ヲ受ケ其指令書ヲ誤

毀スル者ハ余ハ文書ヲ誤毀遺失スルヲ以テ論
スヘシト有之然ル片ハ區長送籍狀ハ余ハ文書
ニモ引諛難ク哉

指令

余ノ文書ヲ以テ論スヘシ

第六十五号 新瀉縣伺

縣ノ文書ヲ誤毀シ或ハ遺失スル者ハ新律綱領
職制律棄毀官文書ノ條ニ依リ懲役五十日贖罪
ニ処スヘキ処諸願伺ニ縣ノ長官押印ノ指令書
ヲ受ケ其指令書ヲ誤毀シ或ハ遺失スル者ハ其

情輕キニ似タリト雖モ別ニ正條無之ニ付本律ニ依リ処断スヘキヤ

指令

部内ヨリ差出ス諸願伺縣ノ長官押印ノ指令書ヲ受ケ誤毀或ハ遺失スル者ハ縣ノ文書ヲ誤毀遺失スルヲ以テ論スヘシ

○詔書有違條

第五十六号 千葉裁伺

千葉縣己決監諛リノ者當裁判所ヨリ交付スル懲役人ノ罰文ヲ謄寫シテ他ノ簿冊ニ登記スル

其際懲役六十日ヲ五十日ト誤寫シ依テ其囚人役限満スシテ放免ス右誤寫スル官吏ハ職制律詔書有違條省察司府縣ノ文書ヲ誤寫シテ事ニ害アル者ハ笞二十并断獄律出入人罪條出タスニ失スル者ハ五等ヲ減ストアルニ擬シ重キニ從テ科シ其囚人ハ既ニ放免セラル、儀ニ付余ノ日數更ニ拘役致サセス候テ可然哉

指令

總テ伺ノ通

○擅離職役

第五十四号 京都裁伺

律令第百二十條官廳ニ陳告セスシテ私擅ニ他管ニ出ニ五十日ヲ過ル者ハ違令重ニ問フトアルニ依リ新律擅離職役條云々擅ニ外ニ出ル者モ其外他管ニ踰ヘ五十日ヲ過レハ懲役四十日ニ科スヘキ哉

指令

新律擅離職役條官吏云々擅ニ職役ヲ離レ外ニ出ル者ハ同管他管亦日数ノ多寡ヲ論セス懲役三十日若シ他管ニ出テ五十日ヲ過レハ伺ハ通

○出納有違條

第七十六号 滋賀縣伺

區長戸長等其區村内ノ諸勘定等職務怠惰ヨリ精算セス終ニ過不足ヲ生レ或ハ又私欲ノ為メニ非スト虫モ文案勘合ニ仍ラス一時繰替等致ス者ハ一區一村ノ出納ナレモ仍ホ官物ト同ク出納有違那違出納等ノ條ニ仍リ罪ヲ科シ然ルヘキヤ又ハ情ヲ量リ違式輕重ニ問ヒ然ルヘキ乎

指令

本文ノ如キハ出納有違那移出納等ノ條ニ比擬
シテ罪ヲ科スヘシ

○私借官物條

第八十二号 埼玉裁伺

戸長副戸長等其町村ノ租税金ヲ地方廳へ完納
スヘキ期ニ先タテ豫メ人民ヨリ取集メ管守中
私借費用シ由テ納期ニ違フ者職制律監守スル
所ノ官ノ財物ヲ私ニ借用スル者ニ準シ破廉耻
甚ヲ以テ論シ其贓ハ身代限り追徴シ尚不足
ルハ官ノ損失ニ止ムルヤ

但本文身代限揭示及ヒ金圓分配等ノ諸方法
ハ通常私債ノ者ト総テ異ナルヤ
同上時ニ當リ仍ホ明治五年第二百八十五号御
布令ノ通り利金ヲモ取立可相成ヤ果シテ然レ
ハ違期ノ原由タル該犯名下ニ就キ本罪ノ贓金
同一裁判所ニ於テ徴取シ地方廳ニ送付スルヤ
或ハ其贓金即チ不納本金并ニ利子ヲ合シ取立
方ハ刑名宣告ノ後同廳ニ移シ処分セシムヘキ
哉

指令

第一條私借官物律ニ依リ罪ヲ科シ贓已ニ費用スレハ資力限追徴スヘシ

但書刑法上盜贓追徴ノ法民法身代限ノ法ト異ナレハ揭示及ヒ分配等ノ方法ヲ用ユル限ニアラス

第二條利金ハ追徴ニ及ハス贓金ハ裁判所ニ於テ追徴ノ上地方官ニ交付スヘシ

第七十六号 滋賀縣伺

貢納スヘキ金穀未タ官納ノ期ニ至ラサル前各民ノ便宜ニ依リ戸長ヨリ豫取立手許ニ預リ置

候テ自己ノ融通ノ為メ一時私借シ追テ納期ニ至リ弁償セントスル等ノ者往々有之右ハ未タ官ニ納ノサル内ナレハ各民ノ私有物ナリ然レハ官物ヲ私借スルヲ以テ論シ難シ故ニ費用受寄財産條ニ照シ処断シテ可然乎ト存候ヘ氏元来戸長職掌上ニテ取集メ預リ居ル者ナレハ只管大切ニ監護スヘキニ却テ一己ノ利欲ニ迷ヒ私借スル其情状客塵倉庫等他人ノ寄託物ヲ私借スルト相同シ故ニ費用受寄財産條ニハ仍リカタク因テ監守自盜ヲ以テ論シ可然哉

指令

貢納ノ金穀ヲ各民ノ便宜ニ依リ戸長預リ置ク者擅ニ費用ストイヘ凡納期ニ至リ完納スレハ不應為輕ニ問フ

○不覺被盜條

第六十六号 愛媛縣伺

本縣下越智郡八大區事務所ニ於テ昨明治六年十月廿二日夜雜税金二十五圓十錢六厘被盜取候段届出尔来遂搜索候ヘ凡本犯不相分則右區長及ヒ取糾候処多少民費ニ關係ヲ顧念シ

宿番ノ者モ不差置ヨリ右様不都合ヲ醸成シ何共恐入候段申出候區長ノ処分右ノ順序ヲ以スレハ職制律不覺被盜條ニモ擬シカタレ何律ニ依リ処分可仕ヤ將雜税金ノ儀ハ本犯捕繫セサレハ現在費用モ不相分依テ如何処置可仕哉

指令

事務所ニ主守者ナケレハ則管守ノ責區長ニアリ不覺被盜律ニ問ハサルヲ得ス其盜贓ノ如キハ遂ニ追徴スル能ハサレハ官ノ損失トス

戸婚律

○欺隱田糧條

第三十一号 山形縣伺

戸婚律欺隱田糧條凡田糧ヲ欺隱シテ版籍ニ脱漏スル者ハ一畝ヨリ五畝ニ至ルハ笞三十云々トアルニ依リ候ヘハ一畝ニ充タサル田糧ヲ欺隱シタル者ハ如何相心得可然哉

指令

一畝ニ滿サルハ論ヒスト虽モ若シ事实捨カクキ片ハ改正ノ上呵責スヘシ

○棄毀器物稼穡條

第四十号 京都裁伺

棄毀器物稼穡條例牛馬ヲ失防スルハ毀損スル处ノ物ヲ賠償セシムトアル处故ナク河防ヲ決潰スルニハ其文不相見候ニ付賠償ニハ不及儀ニ候哉

指令

伺ノ通

第四十九号 濱田縣伺

人ノ金穀ノ證據ニ係ル文書預リ置遺失スル

者ハ何ノ刑ニ処レ可申哉

指令

棄毀器物ノ條私物ヲ遺失誤毀スル者ハ但夕償
テ罪ニ坐セスト云フニ依テ処置スヘシ

第二十八号 京都裁伺

改定律例第百十條凡牛馬ヲ失防シテ田野ノ穀
麥ヲ毀損スル者ハ違式輕ニ依ル若シ毀損スル
處脏ニ計ヘ重キ者ハ坐脏ニ依リ二等ヲ減シ仍
ホ毀損スル所ノ物ヲ賠償セシムト有之候ニ付
若シ牛馬放逸シ因テ墻壁門戸等毀損スルモ同
様公私ヲ分タス處断ニ及ヒ可然ヤ將夕棄毀器
物稼穡ノ本條ヲ以テ論スヘキ哉

指令

改定律例第百十條ニ依リ別ニ棄毀器物ヲ用ヒ
ス

第二十九号 京都裁伺

棄毀器物稼穡律中官物ハ一等ヲ加フ遺失ニ及
ヒ誤毀スル者ハ三等ヲ減スト有ルハ仮令ハ脏
ニ計ヘ一圓以下懲役五十日ヨリ三等ヲ減シ候
ヤ清律註ニハ於官物加二等上減三等トアルニ

據レハ一等ヲ加ヘテ三等ヲ減スヘキニ似タレ
氏斯テハ餘ノ文書ヲ遺失スルヨリ重ク推衡如
何有之候哉

指令

新律綱領ノ通心得ヘシ
但シ官物ヲ遺失シ及ヒ誤毀スル者ハ各三等ヲ
減ストハ一等ヲ加フル上ヨリ三等ヲ減スルヲ
云フ

第七十三号 埼玉裁伺

一己ノ私欲ニアラスシテ鄉村社又ハ道路修繕

類総テ村用等ノ為ニ官林ヲ伐木スル者曾テ盜
情ナキヲ以テ戸替律中人ノ樹木ヲ毀伐スルニ
擬シ竊盜ニ準シテ論シ其情ヲ量リ実断或ハ聽
贖セシメ仍ホ存在セル木材及ヒ費用スレハ償
金ヲ以テ追徴シ地方廳ニ付シ可然哉

以上所用ノ為ニ官林及ヒ社寺境内等ノ樹木ヲ
毀伐スル者其代價ヲ計ルハ生立セシ時ノ代價
ヲ以テシ若シ盜伐ニ係ル者ハ既斫伐スル木材
ノ價ヲ以テ擬定シ可然哉

指令

第一郷村社道路修繕其他村用等ノ為ニシテ無
願ニテ官林ヲ伐木スト虫モ已ニ入レサル者ハ
違令重ニ問ヒ贖ヲ聽ス費用スルモ價ヲ追徴ス
ル限ニアラス

第二毀伐盜伐シテ已ニ入ル者贓ヲ估計スレ
ハ其斫伐スル物ニテ定ムヘシ

第七十号 静岡縣伺

改定律例第百十二條凡牛馬ヲ失防シテ田野ノ
穀麦ヲ毀損スル云々坐贓ニ依リ二等ヲ減シ仍
ホ毀損スル処ノ物ヲ賠償セシムトアリ然ルニ

即今譬へハ畑一反ニ麥ヲ培養スル未久登熟セ
サルニ失防シテ一反ヲ毀損セハ其登熟セサル
ヲ以テ估計スヘキ乎是ヲ以テ估計スル片ハ凡
草ニ異ナラスレテ評價スルヲ得ス依テ登熟ヲ
以テ評價致スヘキ乎

指令

播種シタル麥種何斗何升蒔付ノ節及ヒ培養ノ
度数等人力食料ノ費用ヲ以テ評價スヘシ其登
熟ニ及フ者ハ作並ノ高下ヲ辨シ評價スヘシ

立嫡違法

第三十七号 新瀉縣伺

夫ナキ婦女ニ和姦シ妊娠スルニ及ヒ相謀テ墮胎スル者ハ男女トモ律例第百十四條ニ依リ処断スヘシヤ

墮胎ノ情ヲ知テ為メニ技術ヲ施ス者ヲ紹介シ技術ヲ施サシムル者ハ不應為輕キニ問フヘキカ

指令

第一條伺ノ通

第二條情ヲ量リ不應為輕重ニ問フヘシ

第五十四号 埼玉裁伺

男女私通シ懐孕スルニ男ノ造意ニ從ヒ墮胎スル者改定律例第七十九條凡本條皆ト言ハスト
虫モ云々身自ラ犯スヲ以テ罪ヲ得ルニ係ル者ハ並ニ首從ヲ分タス各本科ニ処ストアルニ依リ各同罪ニ科シ可然カ

若シ女ノ造意ニ出テ男之レニ同意シ墮胎ヲ為ス者ハ仍ホ首從ヲ分ツヘキニ似タリト虫モ其胎子ハ即チ男夫ノ骨肉タルヲ以テ亦身自犯ス者ト同シク首從ノ法ニ依ラス同罪ニ科シ可然

乎
同上ノ事ノ為メニ其依頼ヲ受ケ穩婆ニ囑托ス
ル等ノ周旋スレ者ハ不應為重ニ問ヒ因テ財ヲ
受ルハ賍ニ計ヘ枉法ニ準シ重ニ從テ科断シ可
然乎

指令

三條共同ノ通

第七十八号 堺縣伺

新律綱領立嫡違法條凡嫡長子孫亡没疾病等ハ
故ナクシテ庶子ヲ立ル者ハ杖七十又明治六年

七月廿二日華士族家督相續ハ必ス總領ノ男子
タルヘシ若シ亡没或ハ癡篤疾等不得止ノ事ア
レハ其事實ヲ詳シ次男三男又ハ女
子へ養子願出ツヘント第百六十三号ヲ以テ
御布告アリ此律ト令トヲ比照相考疑候本律
ハ華士族ニ涯リ可相用ノ謂乎將タ平民ハ律ニ
依リ華士族ハ令ニ依リ各殊ノ処分可致乎

指令

華士族平民ノ別ナリ律ニ依ルハ論ヲ俟タス第
二百六十三号ノ御布告ハ華士族ニ限り前以テ

表井言案 卷之二
願出へキ様ノ御趣意ニテ若順序ヲ越テ相續致
ス者ハ律ノ通り処スル儀ナリ故ニ律ト令ト各
殊ノ処分ニハ至ラス

第三十二号 千葉裁伺

改定律例第百十二條ニ子女ヲ棄ル者ハ父母養
父母ヲ分タス并懲役百日トアリ孫ヲ棄ル者モ
右例ニ照シ可然ヤ

指令

伺ノ通

○子弟私擅用財條

第三十号 山形縣伺

子弟私擅用財條凡同居ノ子弟私擅ニ父兄ノ財
物ヲ用ユル者ハ一十圓ニ答一十云々トアルニ
依リ候へハ子弟私擅用財ニ一十圓ニ充タサル
財ヲ用ユル者如何相心得可然哉

指令

一十圓ニ滿サレハ論スルヲ勿レ

○逃亡條

第三号 神奈川裁伺

第一條逃亡二年以外ハ罪ヲ科シ以内ハ問ハス

私擅ニ他管ニ出ル者五十日ヲ過レハ違令重ニ
問フ然ラハ擅出他管者逃亡スト称スレハ罪十
ク又逃亡者擅ニ他管ニ出ルト云ヘハ却テ罪ヲ
得ル様ニ可相成依テ逃亡二年以内ハ違令重ラ
科シ候テハ如何哉

第二條擅ニ他管ニ出ル者五十日以内ハ従前ノ
通違令輕ニテ宜シク候哉

第一二條同ノ通
第三十号 千葉裁伺

私擅ニ本籍ヲ脱出シ二年内同管内ニ湮伏スル
者ハ改定律例第百二十條ニ照シ処分可然哉
追テ二年以外ニ及フハ第百十七條ニ照シ処
分スヘキ哉

指令
五十日以外ハ違式輕ニ科ス
追書伺ノ通

第百六号 岡山縣伺
御省日誌茨城裁判所御指令ニ被告人逃亡ニ相
違ナキ片ハ云々行衛知レサル者ヲ以テ過テ逃

亡ト為スヘカラサル事ト有之右逃亡行衛知レ
サレハ其实际何ヲ以テ區分相立可然哉

指令

逃亡トハ有心規避シテ其踪跡ヲ韜晦スル者ヲ
云フ行衛知レサルトハ規避ノ確証ナクシテ其
居処ハ分明ナラサル者ヲ云フ故ニ假令情况逃
亡ナルヘシト思量スルテ之レアリトモ有心規
避ノ確証ヲ得サル中ハ總テ行衛知レサル者ト
看做スヘキ事

第九号 東京裁伺

第百十七條ニ依レハ假令逃亡レテ二年以内ニ
捕獲セラレハ罪ニ不問儀ニ有之候哉併シ第
百二十條ニ官廳ニ告ケス他管ニ出五十日ヲ過
ル者違令ニ問ト有之上ハ則逃亡シテ五十日以
外ニ至リ未タ二年内ノ者ハ私擅ニ他管ニ出ル
者ト見做シ違令ニ処シ可然哉且二年以外ニ至
リ自首スル者譬私擅ニ他管ニ出ル儀ト申告ス
ト虽モ第百十八條ニ依リ処断可然哉

指令

伺ノ通

第二十九号 八間裁伺

改定律例第百十八條凡逃亡シテ二年以外ニ復
歸云々ト有之候ニ付官廳ニ陳告セスシテ私擅
ニ他管ニ出ル者ハ勿論全ク逃亡ト虽モ然テ二
年以内復歸シ及ヒ自首スル者ハ一体ニ其罪ヲ
免シ可然哉

追テ再犯ハ總テ自首ノ限ニアラサル儀ト相
心得候共逃亡ニ限り二年以内ニ復歸スレハ
其罪ヲ免シ可然哉

指令

二年以内ニ復歸自首スレハ伺ノ通
但シ復歸スト虽モ自首セサレハ改定律例第百
二十條ニ依テ科断スヘシ
追書逃亡再犯ハ自首ノ限ニアラス

賊盜律

○盜大祀神御物條

第七十五号 三重縣伺

改定律例第百二十二條大祀大社ノ神御神室ヲ
盜ム者云々トアリ若シ其神前ノ賽錢ヲ盜ム者

如何

官幣國幣大中小及ヒ府縣郷社ノ賽銭ヲ盗ム者ハ各如何

指令

第一條大祀大社神前ノ賽銭ヲ盗ム者ハ各盗罪ヲ以テ論シ罪懲役終身ニ止ル

第二條官幣國幣大中小社及ヒ府縣郷村社神前ノ賽銭ヲ盗ム者ハ各盗罪ニ準シテ論ス

○盗官文書條

第三十二号 北條縣伺

伺指令共偽造官印ノ條ヲ見ルヘシ

○強盜條

第二十一号 愛媛縣伺

強盜律盜ニヨリテ姦スルモノハ成否ヲ論セス

絞卜之レアル処強姦ニヨリテ盜スルモノハ盜

罪輕キハ強姦ニヨリ論シ流三等ニ処決シ可然

哉

指令

盜ニ依テ姦スルモ姦ニ依テ盜スルモ罪同シ

第六十号 宮崎縣伺

凡數人共ニ強盜ヲナシ内一人兇器ヲ持スレハ
其餘兇器ヲ持セサル者モ皆持兇器強盜ヲ以テ論
シ可然哉

指令

兇器ヲ持スルノ情ヲ知ラサレハ共盜ハ者ハ不
持兇器強盜ヲ以テ論ス

○竊盜條

第十三号 高知縣伺

初犯再犯財ヲ得ス三犯ニ至テ財ヲ得ハ加減如
何ニ候哉

指令

竊盜三犯五十圓内外ヲ以テ処分スヘシ

第十二号 京都裁判

竊盜再犯財ヲ得サル者加等ノ例ニ候ハ、其三
犯ニ至リ財ヲ得ル五十圓以上ハ絞ニ処シ可申
哉云々ノ趣先般相伺候処改定律例第百三十六
條ニ依ルヘシト御指令之レ有リ然ルニ百三十
六條ニハ凡竊盜再犯財ヲ得サル者ハ律ニ依リ
一等ヲ加ヘ三犯以上財ヲ得サル者ハ懲役三年
トアリテ初犯財ヲ得再犯以上財ヲ得サルノ例

ニテ初犯財ヲ得ス再犯以上財ヲ得ルノ例相見
ヘ不申候処三犯以上財ヲ得サルモノ已ニ斟酌
ノ権衡之レ有ルニ付三犯財ヲ得ル五十圓以上
ハ虽モ初犯再犯財ヲ得サルニ係ラハ量減ノ法
モ可有之候哉

指令

改定律例第百三十六條凡竊盜再犯財ヲ得サル
者ト初犯ノ時財ヲ得ル得ルニ論ナク再犯
ノ時財ヲ得サル者ヲ云フ
初犯再犯財ヲ得ス三犯ニ至リテ財ヲ得ル者ハ律

ニ依リ五十圓内外ヲ以テ科斷スヘシ

第八十三号 兵庫裁伺

竊盜頭跡アル者従前ノ御指令ニ依リ懲役三十
日ニ処シ采リ候処右ハ犯數ニ計ヘサル方可然
哉

指令

伺ノ通

第百号 秋田縣伺

海邊人他船風濤ノ難ニ罹リ物品ヲ水中ニ抛却
スルヲ傍觀シ暗ニ之ヲ奇貨ナリトシ其ノ漂着

スルヲ竊取スル者其情水中沈没ノ物ヲ得ル同
シカラス故ニ竊盜ニ準レ可然哉

指令

伺ノ通

○盗田野穀麥條

第七号 京都裁伺

山林ノ竹木ヲ盗ム者ハ田野ノ穀麥條菜葉ヲ盗
ムト同シク竊盜ニ準レ候哉
但シ官林ハ常人盜ニ準レ候哉

指令

山林ノ竹木ヲ盗ム者ハ官私ヲ分タズ
竊盜ニ準レテ論ス

第十一号 新治裁伺

山林ノ内竹木ヲ盗ム者ハ官私ヲ不分
竊盜ニ準レ論スヘキ乎

指令

新律綱領盗田野云々ノ後項ニ依リ官私ヲ分
ス処断スヘシ

第九号 愛知縣伺

看守者之レナキ官林ノ門扉及ヒ金物ヲ盗
三取

ル者、贓ニ計ヘ、窃盗ニ準シ、官物ナルヲ以テ一等ヲ加ヘ、処断致スヘクヤ

指令

官私ヲ分クス盗、田野穀麥律ニ依テ、処断スヘシ

○親属相盗條

第三十四号 愛知縣伺

農事助力等ノ為メ、親族相雇フノ後、雇入家長ノ財物ヲ盗ム者アリ、其罪雇人盗家長財物ノ條ヲ以テ之レヲ擬シテ可ナラン乎、将夕其等親ニ係ルヲ以テ親族相盗ノ條ニ擬シ可ナラン哉

指令

親属相盗ヲ以テ論スヘシ

第九十一号 千葉裁伺

各居二等親以下ノ田野ノ穀麥菜菓ヲ相盗ミ、又ハ器物ヲ棄毀スル等、准窃盗罪ヲ犯ス者ハ、並ニ親属相盗律、逆減ノ例ニ依リ罪ヲ科シ可然乎

指令

伺ノ通

○雇人盗家長財物條

第九十八号 小倉縣伺

雇置候者家主ノ財物ヲ窃取シタルニ数月雇ハ
レオル者ト虽モ戸籍届ナキ片ハ雇人盗家長財
物律ヲ以テ論セス御省第百九十号御布達ニ照
準シ更ニ凡盗ヲ以テ科断シ可然哉
其家主ハ戸籍届不致雇置タルニ依リ違式ノ輕
ニ比シ贖ヲ聽シ可申哉

指令

第一條 伺通
第二條 僕婢車駕籠罰則 第五條ニ依テ処分スヘ
シ

第二十六号 東京裁伺
伺書略之

指令

家令扶從番頭手代ノ類ハ同居各居ニ不拘其他
ノ雇人僕婢届以上ノ者ハ第百四十三條ノ律例
ニ依ル可シ但シ布達前後ノ別ナク届ケ未濟ノ
者ハ凡盗ヲ以テ論スヘシ

○恐喝取財條

第七十五号 筑摩縣伺
凡竊盜財ヲ得サル者ハ律ニ依リ懲役四十日ニ

科スト虫モ若恐喝詐賺局騙等ノ如キ準盜或ハ
準盜ニシテ加等ノ例アル者モ財ヲ得サル片ハ
仍ホ一般懲役四十日ノ律ニ從ヒ処断可然哉

指令

準盜トイヘ氏恐喝取財ノ如キ加等スル者ハ財
ヲ得ストイヘ氏一等ヲ加ヘ懲役五十日加等セ
サル者同ト通シテハ懲役五十日加等セ

○詐偽取財條

第三十五号 滋賀縣伺

今茲于心易キ他人ニ先方へ届吳候様衣類等依

托スルノ処他人貧困ノ餘途中ニテ費用イタス
ハ雇人又ハ脚夫等ニ無之候へハ雇人盜家長財
物ノ條ニ依リ難キ乎竊盜ノ條ニ照スヘキ乎若
シ質入イタシ償還スル心底アルハ費用受寄財産
ノ條ニ照スヘキ乎

指令

前半ハ拐帶ヲ以テ論ス若シ以下ハ伺ハ通

○畧賣人條

第三十七号 新瀉縣伺

改定律例第四百七十七條ニ云々懲役五十日ト有

之和賣スル者ハ一等ヲ減シ賣ラル者ハ坐セ
サルヤ

子孫ヲ和賣シテ娼妓ト為ス者ハ婦人ト虽モ收
贖スル一ヲ聽サ、ルカ

他人ノ為ニ子孫ヲ和賣シテ娼妓ト為ス媒介ヲ
為スハ如何

指令

第一條伺ノ通

第二條伺ノ通收贖ヲ聽サス実決ニ処スト虽モ
親ハ凍餒ヲ救フ等ノ為メ其子孫ノ情願ニ由リ

和賣スル者ハ事情ヲ酌量シテ收贖ヲ聽ス

第三條犯人ノ罪二等ヲ減シ贖ヲ聽ス

第九十二号 新潟縣伺

子孫ヲ和賣シテ娼妓トナス者ハ懲役四十日ニ
処スヘキ旨先般御指令有之其情ヲ知テ買フ者

ハ一等ヲ減シ懲役三十日ニ処スヘキカ

指令

伺ノ通

○兇徒聚衆條

第二十一号 長崎縣伺

明治六年十二月二日付ヲ以テ相伺候三ヶ條ノ
内第三條戸長ノ私宅ニ強訴スル者首ハ違制重
ニ問ヒ懲役九十日ト御指令相成候必違制ノ重
ハ懲役百日ト被存候

指令

伺ノ通

○盜賊窩主條

第八十三号 濱田縣伺

子弟私擅ニ父兄ノ財物ヲ用ユルニ他人情ヲ知
リ密ニ其物品ヲ買得スル如キハ如何

指令

子弟自ラ持来ルヲ情ヲ知テ買得レハ盜贓ヲ故
買スル者ニ擬シ二等ヲ減ス若シ子弟ヲ勸メ持
来ラレシメテ買得スルハ一等ヲ減ス

第二十八号 京都裁伺

盜賊窩主條例凡竊盜窩主再犯以上ニ係ル者ハ
律ニ照シ造意不造意同行不同行分贓不分贓ヲ
分チ并ニ犯数ニ計ヘ竊盜ト同ク罪ヲ治スト之
レアリ候ニ付初犯再犯竊ニレテ三犯ハ窩主ニ
シテ行ハス贓ヲ分タス其本罪答三十二誡ルモ

新編 刑律 卷之三十一 七十一 田中 氏 撰

ノ仍ホ本犯所得ノ数ヲ其贓ニ計ヘ三犯五十圓以上以下並ニ本科ニ照シ処断可致カ将夕窃盗三犯以上財ヲ得サル等ノ例ニ権衡シ処断可致ニモ可有之ヤ

指令

盜賊窩主ノ犯數ニ計ヘ窃盜ト同ク罪ヲ治ストハ再犯以上ヲ云フ伺ノ如キハ窩主ノ初犯ニ係ル懲役三十日ニ科スヘシ

人命律

○開改及故殺

第九号 東京裁判

第百七十七條云々一等ヲ減シ懲役十年ニ処ストアルハ原謀者ニ候哉又ハ同夥一統ノ事ニ候哉

指令

原謀者死スレハ共毆致命傷ヲ為ス同夥者ヲ懲役十年ニ処シ同夥者ノ一人死スレハ原謀者并ニ同夥者ヲ懲役十年ニ処ス

第百七十八條傷皆致命ニシテ云クト有之右ハ

裁判 卷之三十一 七十一 田中 氏 撰

已ニ費用スレハ追徴ニ及ハス

第九十号 京都裁伺 罪按節録

丹波國船井郡諸木村農竹井幸次郎長女コトヲ
云々麻田治左衛門方へ日々子守ニ雇ハレ居リ
當一月一年一月ニ相成ル同人四男倉之助ヲ其
母帶ヲ以テ自分ニ脊負セ其上へ綿入半纏ヲ自
分諸共着用サセ尚細帶ニテ括リ付ケ呉レ平常
ノ通り野遊ヒニ出テ日暮ニ及ヒ帰宅ノ途中道
傍ニ有之肥ニ溜瓶際へ立寄小児ヲ下シ小便ヲ
致サセヘクト存シ右帶紐ヲ解放セントスルノ

機ニ半纏ト掛ニ倉之助ヲ肥ニ瓶中へ取落シ候
ニ付打驚キ誰ソ引揚ケ呉レヨト呼叫候へ凡人
家懸隔リ人モ居合セス去迎其僂雇ハレ先キニ
歸ルモ申訳ナク又親元へ歸ラハ折檻ニ逢フヘ
シト當惑処々迷ヒ歩ニ同夜二字頃自宅へ歸リ
候処行衛尋中ノ由ニ付右ノ次第有底申聞候然
ルニ倉之助ハ其前既ニ尋子當リ治左衛門宅へ
連歸リ聞モナク死去ノ趣母ヨリ承リ候云々

指令

過失殺傷人條過失ニテ人ヲ殺ス者法ニ依リ老

幼ノ贖例ニ照シ收贖セシムヘキ所無力ニシテ
贖フヲ能ハサルニ由リ改定律例第三十一條ニ
照シ五等ヲ減シ懲役二年半ニ減テ第三十二條
無力收贖ノ法ニ拠リ其贖金ノ半ヲ追給スルニ
足ルヲ期トシ役ヲ免ス

折半收贖金三圓七十五錢此贖金ヲ追償スヘキ
雇工堪ユル能ハサレハ直チニ放免ス

○弓銃殺傷人條

第九号 東京裁伺

第百八十八條ハ人ヲ殺傷セサレハ罪ニ不問事

ニ候ヤ又ハ違令カ或ハ鳥獵規則等ニ依リ処斷
致シ可然ヤ

指令

鳥獸獵規則ニ依テ処分スヘシ

○車馬殺傷人條

第廿九号 山梨裁伺

凡深山曠野猛獸ノ往来スル所ニ於テ阮窳ヲ穿
作シ堅竿及ヒ抹眉索ヲ立サル者ハ云々死ニ致
ス者徒三年仍ホ埋葬金廿五圓ヲ追テ死者ノ
家ニ給付スト有之然ルニ犯人無力ニシテ贖フ

丁能 サル者ハ新條例庶人犯罪不的決附例條
凡過失殺傷贖フヘキ者無力ニシテ贖フ丁能ハ
サルハ懲役ニ服シ云々ノ條例ニ依リ處斷可致
乎然ル片ハ徒三年使役前懲役セシメ雇工錢ノ
全額ヲ領置シ食費ヲ扣除シ贖金ノ半ヲ償ハシ
メ殺傷セラルノ家ニ給シ可申哉

猶以當縣ノ如キハ未懲役場規則モ不相立旁
本文ノ如キ犯人懲役ノ雇工錢容易ニ領置シ
難ク然ル片ハ無期ノ姿ニテ事情憫諒スヘテ
者ニ御座候

指令

徒限中食費扣除ノ上雇工錢ノ全額ヲ積ミ埋葬
金額ニ足ラサル者ハ其限ヲ延スヘシ若シ能ク
監獄則ノ法ヲ守リ役限未タ滿サルニ埋葬金額
ニ不足者ト雖モ三年ノ限ハ勤メサルヲ得ス其
金數ニ至テモ二十五圓ヲ全結シ過失殺傷收贖
ト一例視スヘカラス

○瘋癲殺人條

第九号 警保寮伺

舊來ノ風習ニテ醉人ノ罪ハ頗ル斟酌ヲ加ヘ醉

人モ亦公然酩酊ヲ以ノ辞トナシ其罪ヲ道レ候
姿ニ有之候処元来酒ヲ使フテ放心ニ遂ニ法憲
ヲ犯シ又ハ違式註違ハ罪ニ觸レ候其罪實ニ飲
マサル者ヨリ甚シク聊寛恕ノ道無之儀ト存候
間以来醉態ニテ法憲ヲ犯シ候ハ勿論違式註違
ハ罪ニ觸レ候者モ無用捨法ノ如ク処分致シ可
然哉云々

指令

伺ノ通

第三十九号 北條縣伺

凡瘋癲人々ヲ殺ス者ハ終身鎖錮仍ホ金二十五
圓ヲ追給シ死者ノ家ニ給付レ候ハ正一等親ヨ
リ五等親マテノ内ヲ殺ス者ハ如何云々

指令

祖父母父母ヲ殺スハ改定律例第百九十四條ノ
通二等以下ノ親ヲ殺スハ第百九十五條ニ準レ
テ科スヘシ

第五十四号 豊岡縣伺

伺書略之

指令

懲役五年改正ストアルモ本犯ノ如キ瘋癲ニテ
放火スル者ハ律ニ明文ナシ因テ果シテ痊愈ス
スレハ親屬隣佑ノ保証ヲ取り禁獄ヲ全免ス

○謀同死條

第二十三号 奈良縣伺

墮胎シテ姦婦死スル時藥ヲ賣リ術ヲ施ス者処
置方壬申九月中相伺候処流三等ト御差圖相成
今般御頒布ノ改定律例ニハ従前姦夫流三等ノ
條懲役三年ト御改定相成候ニ付テハ術ヲ施シ

藥ヲ賣ル者モ姦夫同罪ト見做シ可然ヤ

指令

伺ノ通

○移地界内死屍條

第六十号 官崎縣伺

凡變死ニ係ル屍官ノ檢視ヲ經ス私擅ニ埋葬ス
ル者若シ詐テ病死ノ筋ヲ以テ官ニ告ル者ハ檢
視ヲ經ス私擅ニ埋葬スル律ト上ニ告ニ詐テ実
ヲ以テセサルノ律トニ照シ重ニ從テ処断可仕
哉

指令

伺ノ通

第九十六号 新潟縣伺

変死ニ係ル屍ヲ私擅ニ埋葬スル者ハ追悔自首
スト虫モ首免ヲ與ヘサル哉

指令

其犯情ヲ審糾スルニ改傷ニ係累ナク追悔ノ事
実相違ナキ者ハ首免ヲ與フヘシ

聞改律

○聞改條

第二十八号 兵庫裁伺 十罪案略之
人ヲ海中ニ突落レ候事再度ニ及ヘリ令幸ニ損
傷無レト虫モ其事重クシテ情モ亦悪ムヘレ因
テ如何処断可致ヤ云々

指令

人ヲ海中ニ投入スル者其兇暴甚シキヲ以テ聞
改律湯火ヲ以テ人ヲ傷スルハ権衡ニ依リ一等
ヲ減シ

懲役九十日 総五郎

○毆本属長官條

第六十五号 青森縣伺

改定律例御頒降以前ノ事犯ニテ非役士族本属
判任官ヲ毆ツ者ハ毆官吏律ニ照シ懲役九十日
士族タルヲ以テ閏刑ニ換ヘ禁錮九十日申付可
然哉又ハ名例律称等内人條凡等内人ト称スル
者ハ初位以上ヲ謂フ士族モ亦等内ニ準スト有
之候上ハ凡聞毆ヲ以テ論シ手足ヲ以テ毆テ傷
ヲ成サハル者ハ禁錮二十日申付可然哉

指令

平民ハ毆ト同ク罪ヲ科ス
但シ聞毆ノ事由ヲ審究シ実決閏刑ニ區処スヘ

○毆官吏條

第三十七号 京都裁伺

昨年七月律例疑儀伺出候十三條ノ内第七條律
例第百三十七條凡平民本属ノ戸長ヲ罵ル者
凡人罵詈ニ一等ヲ加フトアリ聞毆ニハ加等之レ
ナキヤノ御指揮伺ノ通ト之レアリ候然ルニ同
月頃滋賀縣伺ノ御指令ニハ平民本属ハ戸長ヲ

裁井言... 卷之二

殴ツ者ハ凡聞傷ニ一等ヲ加ヘ邏卒ヲ殴ツ者ハ
又一等ヲ加フ折傷以上ハ並ニ凡聞傷ヲ以テ論
ス又平民本属ノ等外吏ヲ殴ツ者ハ凡聞殴ニ一
等ヲ加フ折傷以上ハ凡聞傷ヲ以テ論シ罰止者ハ
凡人罵詈ニ一等ヲ加フト御指令之レアリ候趣
傳承致云々右ヲ援引致シ可然ヤ

指令

滋賀縣指令ノ如ク心得ヘシ

第五十七号 長野縣伺 夫夫聞... 改定律例第二百三十七條凡平民云々トアリ其

邏卒ヲ殴ツ者ハ凡聞ヲ以テ論スルカ手足ヲ以
テ人ヲ傷テ成サシル者ハ笞二十五ノ罰受ル
罪ヨリ重シ此權衡如何

指令

平民本属ノ戸長ヲ殴ツ者ハ凡聞殴三等ヲ加ヘ
邏卒ヲ殴ツ者一等ヲ加フ折傷以上ハ凡聞殴ヲ
以テ論ス

○ 殴三等親以下尊長條

第三十五号 滋賀縣伺

殴三等親以下尊長條中五等親尊長ノ儀ハ不相

裁制義探 卷之二 八十二 日中

新判語彙 卷之二 八十一 田中氏藏

見候処殴傷妻妾條中夫妻ノ父母ヲ殴ツ者ハ杖九十云々トアリ其外不相見舅姨ノ子姑ノ子ヲ殴罵スルノ類ハ年齡ニ依リ尊卑ノ區別無之候哉

指令

伺ノ通

○殴祖父母父母條

第五十六号 京都裁伺

祖父母父母及ヒ二等親尊長ヲ過失殺傷ノ文ハ律例ニ相見ヘ候ヘテ誤殺傷スルノ項正條ニ無

之右ハ誤殺傍人條聞殴ニテ誤テ傍人ヲ殺傷スル者ハ聞殴傷ニ準シテ論ス罪流三等ニ止ルト云ニ依リ祖父母父母ヲ誤殺傷スル者トモ懲役十年ニ擬シテ可然哉

指令

聞殴ニ依リ誤テ祖父母父母ヲ傷スル者懲役十年殺ス者ハ懲役終身謀故殺一因テ殺ス者故殺祖父母父母律ニ依リ傷スル者ハ殴傷ヲ以テ論ス

裁判録 卷之二 八十三 田中氏藏

罵詈律

○罵詈人條

第七十八号 廣鳴縣伺

改定律例第二百三十七條邏卒ヲ罵ル者ハ凡人罵詈ニ二等ヲ加ヘ候明文有之候処茲ニ鎮臺病院在テ門前ニ番兵アリ然ルニ一人ノ士族大醉ニテ其門ヲ過ル折節番兵ニ向ヒ暴言ヲ吐ク者アリ是等邏卒ト同ク凡人罵詈ニ二等ヲ加シ可然哉

右ノ外番兵ニ非スレ曜日休暇等ニテ途上来往

ノ兵卒ニ向ヒ暴言ヲ吐ク者アラハ加等如何

指令

兩條共凡人罵詈ヲ以テ論ス加等スルノ限ニアラス

第五十六号 白川縣伺

改定律例第二百三十七條凡平民本屬ノ戸長ヲ罵ル者ハ凡人罵詈ニ一等ヲ加ヘ邏卒ヲ詈ル者ハ又一等ヲ加フト有之士族ノ邏卒戸長ヲ罵ル者ノ正條之レナク候ヘ凡凡人ヲ以テ判決セハ輕縱ニ失レ邏卒戸長ノ役権モ難相立候ニ付右

平民ノ例ニ処置致シ可然哉

指令

伺ノ通

第五十七号 長野縣伺

等外吏ヲ罵ル者ハ前條邏卒ニ擬シ可然ヤ

指令

平民本属ノ等外吏ヲ罵ル者ハ凡人罵詈ニ一

ヲ加テ開政ノ五十七号照合スヘシハ凡

訴訟律

○越訴條

第三十一号 伺書

壬申十一月本年二月伺濟ノ上別紙ノ通各裁判

所府縣へ布達ニ及ヒ候付テハ越訴律被廢止度

若シ強訴等ニ係レハ別ニ処分可有之候間別紙

御布告案差添相伺候也

御指令

伺ノ趣第二百九十八号布告候事

第三十二号 新治裁伺

已レ姓名ヲ隱匿シ止夕郡村等ノ名ヲ題シタル

文書ヲ官吏ノ門牆内ニ投シ或ハ郵便函等ニ投
入シテ人ノ罪ヲ訴告スル者類ニ有之処其匿名
タルヲ以テ受理セサルヲ揭示ス若シ其人ヲ
捉獲スル片ハ何律ヲ以テ処分致スヘキヤ

指令

情ヲ量リ不應為輕重ニ問フ

○誣告條

第三十五号 滋賀縣伺

賊已レカ窃盜罪ヲ包マントテ其窃盜ヲ誣告ス
ルノ類右ハ一ノ罪ナレハ二罪ト虽モ合併致サ

ス候哉

右同断茲ニ窃盜ノ一罪アリ又一ノ窃盜ヲ誣告
スルハ兩罪合併算候哉若シ併セテ罪死ニ入ル
ハ一等ヲ減シ流三等ニ止リ候ヤ又ハ懲役終身
ニ処シ候哉

指令

兩條共一ノ重キニ從テ処断ス兩罪合併ノ限ニ
アラス

第七十三号 濱田縣伺

改定律例第百三十九條已ノ罪ヲ避ルヲ規

リ人ヲ誣告スル者ハ原罪收贖々罪ニ談ルト虫
モ反坐ノ罪贖フヲ聽サスト有之原罪実決ノ
者加等ノ例不相見候处此節一賊アリ窃盗ヲ行
ヒ敗露ノ場合ニ至リ其盗ム所ノ財物ハ何某ヨ
リ買得スル所ナリト誣告シ双方拷尋ノ上其情
ヲ得誣ラル、者ニ於テハ以ノ外致迷惑候次第
ケ様ノ誣告人ヲ本罪ノ三科シ候テハ巳ノ罪ヲ
規避スル為メニ無罪人ヲ誣ルノ弊ヲ生シ自然
良民ノ禍ト可相成右ハ如何処断可然哉
指令

第一誣告ハ原罪実決ニ談ルモ加等セス第二項
本文ノ如キハ盗犯ノ常状ニシテ真ノ誣告ニ非
ス被誣者ヲ推問セハ即チ其事实ハ自ラ判然ナ
リ律ニ其重罪ヲ犯シ贓証明白ナルニ招承ニ服
セサル者ニ非サレハ拷訊セスト云フ因テ本文
ノ如キ盗犯ニ一時誣ラセル、者ヲ拷訊スヘキ
ニ非ス

○干名犯義

第二十一号 開拓使問合

養父其養女ト姦セシヲ告言セシ養父ノ妻訴訟

律千名ノ條ニ照スルハ夫ヲ告ル者ハ実ヲ得ト
虫モ徒二年半其告ラル、二等三等親ノ尊長ハ
自首ニ同シク罪ヲ免スト有之名例律犯罪自首
ノ條ニハ其人ヲ損傷シ及ヒ賠償スヘカラサル
ノ物ヲ毀棄シ若クハ姦スル者ハ並ニ自首ノ律
ニアラスト有之ニ付犯姦ハ前二條ニ依ラス全
ク犯姦ノ律ニ照シ罪ヲ科シ告言スル妻ノ罪ハ
千名犯義ヲ以テ論シ処断可然哉

指令

妻ハ千名犯義ヲ以テ論シ夫ハ罪ヲ問ハス

右ノ指令替

養父養女ヲ姦スルハ繼父前父ノ女ヲ姦スル權
衡ヲ取り各懲役一年其妻告言スト虫モ全免ヲ
與フルノ限ニアラス妻ハ千名犯義ヲ以テ論シ
懲役二年半

右ノ指令犯姦律親屬相姦スル條内同使伺ヲ照
見スヘシ

受贓律

○官吏受財條

第二号 千葉裁伺

名例律稱等内人條ニ士族ハ等内人ニ準スト有
 之依テ士族枉法不枉法ヲ以テ論シ及ヒ準シテ
 論スル罪ハ等内人ト同シク科断スルコトニ可有之
 然ルニ改定律例二十五條ニ平民官ニ在ル者其
 父母兄弟子孫一切犯罪ハ並ニ士族ニ準シテ論
 ストアリ其平民官ニ在ル者トハ等外吏ヲモ指
 テ云フト堺縣伺御指令ニ相見候然ハ今日士族
 ハ等外吏ノ上ニ在ルヘキ者ニ無之依テ右枉法
 不枉法云々ノ罪ハ等外人ト同シク罪ヲ科シ可

然乎然ラハ已ニ处断致シ候件モ有之候ニ付更
 ニ貼断可仕候

指令

伺ノ通但領行以前ノ断決ニ係ル者ハ改正ニ及
 ハス

第五十五号 滋賀縣伺

犯罪自首條ニ枉法不枉法ノ賍ヲ受ケ過ヲ悔ヒ
 テ本主ニ還付スル者ハ官司ニ自首スルト同ク
 皆其罪ヲ免ストアルニ依リ其賍罪ハ免ト虫モ
 枉法ニ至テハ其法ヲ枉ルノ罪ハ官司ニ自首ス

表并言... 卷之二... 田中...

ルニ非サレハ免罪セサル儀哉

枉法不枉法ノ贓本主ニ還付スル者ハ罪ヲ免ス
ト虫モ與フル者ハ仍ホ本罪ヲ科シ其財ハ取與
俱ニ罪アル物ニ付官ニ没入シ可然乎

指令

第一條受贓ノ罪ハ免スト虫モ故出入ノ罪已ニ
決放スル者ハ官司ニ自首スルト虫モ首免ヲ與
フルノ限ニアラス
但シ故失出入ノ罪未タ決放セス官司ニ自首ス
ル者ハ首免ヲ與フ

第二條與フル者別ニ論スヘキノ罪アレハ仍ホ
律ニ依リ科断スト虫モ其坐贓ノ罪ハ不問ニ置
ク財物モ官没スルノ限ニアラス
第九十七号 京都裁伺

新律称同罪條其罪同レト称スルモノハ死ニ至
ルモ減等セストアリ此其情罪毫モ正犯ト異ナ
ル無キ故ニ可有之ト存セラレ依テ七贓凶ノ不
枉法ハ窃盗ト罪同改正私借官物律ノ監守自盜
ト罪同トアル如キ拘摸ノ窃盗ト罪同トナルト
均一ノ明文アルニ付華士族及ヒ官吏ニシテ之

裁例義案 卷之二 日中...

ヲ犯セハ固ヨリ並ニ破廉耻甚ヲ以テ論シ候儀
ト相心得候ヘ氏聊疑儀ヲ抱キ候云々

指令

伺ノ通破廉耻甚ヲ以テ論ス

○坐賍

第二十五号 滋賀縣伺

前同断違式條第一項見合スヘシ已ニ官ヨリ其取立ツヘキ
定額ヲ申渡スノ後テ過分ニ増錢ヲ取立ル者ア
レハ其増加スル所ノ數ヲ計ヘ坐賍ヲ以テ論シ
可然乎

指令

増加スル所ノ數ヲ計ヘ坐賍ヲ以テ論スヘシ

裁判議案卷之二終

書非言家
禮記

十卷
禮記

禮記卷之八

禮記

